

国際連携2021-1-11

Legal Testbed 概要紹介

2021/6/22

Legal Testbed – making Industry 4.0 legally compliant

契約を締結し、実施される部分を自動化したらどうなるか、という実証実験
これを法的側面から検討する

◆ 課題

1. 機械が締結した契約は法的に有効といえるのか？
2. IT面の十分なセキュリティをどのように保証するか？
責任範囲や賠償といった面での具体的な問題は何か？

◆ ユースケース

1. 配送ユースケース（今回の実証内容。後述）
2. 製造ユースケース（検討中）
 - ・ 顧客とサプライヤがそれぞれソフトウェアエージェントを立てて製造について交渉と契約をする
3. トラブルユースケース（検討中）
 - ・ ミスや不良品が発生した場合の、技術的・法的対応を検討する

◆ 参加者

- HGI、Sarrlandes大学、Fraunhofer
- 日本からはRRIが協力



https://www.hannovermesse.de/apollo/hannover_messe_2021/obs/Binary/A1089608/NEW_Produnktblatt_LEGAL%20TESTBED_HM_ENG.pdf

状況（2021年）

- ・ 今年のアノバーメッセでデモを提示
- ・ "Automated Trust Management"が交渉の前に必要だ、として新たな研究トピックを設置

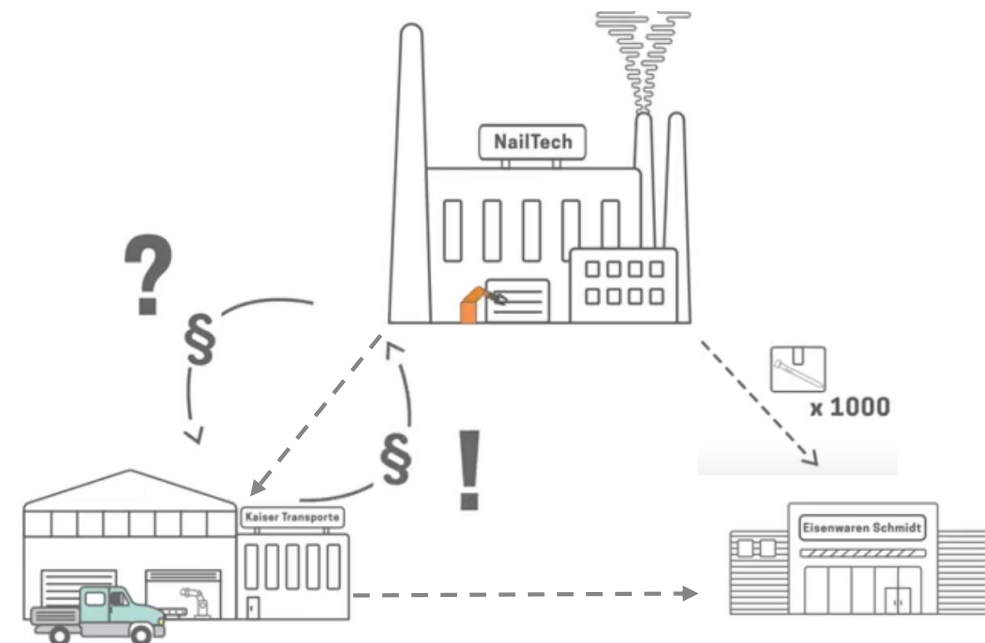
HannoverMesse 2021でのデモ

<https://www.youtube.com/watch?v=72LQZf-dLE8>

この取引を実際に行ったとして、法的側面について検討する

◆ 配送ユースケース（今回の実証内容）

- 工場Aが、商社Bに製品を売る。このとき配送業者Cに配送を依頼する。この配送の部分が今回の対象
- 条件に合う配送業者を探し、契約条件を整理する。
 - （デモでは、単純に空きスロットを探している）
- 配送契約を締結し、工場で製品を受け取り、商社に製品を引き渡す。
- この各段階において、以下をブロックチェーンで実装
 - それぞれが正当な契約業者であることを示す、
 - 商品の受け取り・引き渡しの証跡（時間、場所、個数、など）、
 - 契約条件に合わせて支払いが行われる、



コメント

- デモ中に“automated negotiation and execution of contract”という台詞があり、交渉と締結の自動化を考えていることが分かる
- 「EU内にあるとする」として検討を簡略化している